

## 平成26年度10月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成26年10月2日（木）午前11時～正午

場所 市役所2階第1委員会室

出席 市政記者クラブ8社

### 会見内容

#### 1. はじめに

- 9月27日に長野県と岐阜県の県境にある御嶽山が噴火いたしました。多くの皆さんがお亡くなりになり、また、行方不明者の方も多くいらっしゃる状況であり、大変な災害になっています。今もなお、火山の活動の兆候が見られるということで、救助もなかなか進まない状況とのことで、心配な状況は続いております。心よりお見舞いを申し上げます。
- 市内にある雌阿寒岳・雄阿寒岳の噴火警戒レベルは1（平常）となっていますが、御嶽山も同様の警戒レベルであったとのことで、今回のニュースも他人事ではないと強く感じています。
- 9月29日から本日にかけて、釧路管区气象台、釧路地方气象台、網走地方气象台が共同で実施しました、雌阿寒岳の現地調査・観測の結果を踏まえまして、本日、常時観測火山である雌阿寒岳の活動状況説明会が阿寒湖まりむ館で開催されています。また、説明会の後には、雌阿寒岳火山防災会議協議会の常任幹事会も開催されることになっています。
- これまでも関係機関と連携した中で、雌阿寒岳火山防災ガイドブックを作成するなど、火山災害への対応については、市民の皆さんに周知してまいりましたが、これまで以上に強い危機感を持って取り組んでまいりたいと思っています。

#### 2. 話題提供（3項目）

##### **1. ニューオリンズ港姉妹港提携30周年記念親善訪問の実施について**

- ニューオリンズ港（アメリカ ルイジアナ州）とは、1983年（昭和58年）にニューオリンズ港から飼料穀物船「ゴールデン・デイジー号」が第1船として初入港したことをきっかけに、当時の釧路市長からニューオリンズ港湾局長に姉妹港提携を提案し、翌1984年（昭和59年）に提携調印しました。
- これまで、親善訪問団等の相互訪問による交流をはじめ、くしろ港まつりにニューオリンズのジャズバンドが参加するなど、様々な形で交流を重ね、友好関係を築き上げてきました。

- 2014年は姉妹港提携30周年の節目の年にあたり、釧路市議会議長、釧路港湾協会関係者等計16名による親善訪問団（団長：釧路市長）を結成し、提携日の10月31日に合わせた、10月29日から11月1日の日程でニューオーリンズを訪問します。
- ニューオーリンズ港湾局において姉妹港提携30周年の記念調印式、ニューオーリンズ市への表敬訪問、ニューオーリンズ港の視察及び釧路港のPR等を予定しています。
- 釧路港とニューオーリンズ港を結ぶ航路は、パナマ運河を通過し、日本国内では北米から最も近くに位置する釧路港を結ぶもので、近い将来パナマ運河の拡張に伴う船舶の大型化により一括大量輸送が可能となるなど、まさに、現在整備を進めている釧路港の国際バルク戦略港湾の中核をなすものです。
- 経済交流の側面においてもニューオーリンズ港との関係は今後さらに深まるものと期待をしており、今回の訪問を両港の発展と交流促進につなげる事業としたいと考えています。

## 2. くしろ「木づな」フェスティバル2014の開催について

- 釧路市では林業・木材産業関係者等と「釧路森林資源活用円卓会議」を組織し、地域材の利活用を通じて適切な森林整備を進めるとともに、地域経済の活性化を目指すため、様々な課題解決に向けて活動してきました。
- 円卓会議5周年という節目に当たることから、これまでの主要な活動である「木づなプロジェクト」の軌跡やくしろの林業・木材産業の現状を広く市民に知ってもらうため、10月25日（土）26日（日）、鳥取ドームにおいてくしろ「木づな」フェスティバル2014を開催します。
- 内容は、全国でも例のない試みである高性能林業機械による伐倒実演や、木育ひろば、木育マイスターによる体験活動といったイベントや、林業・木材産業に関わる企業・団体による木製品の展示ブース等となっています。

## 3. 智のおもてなし創生事業「リレーセミナー阿寒湖の魅力再発見・自然史の最新研究を学ぶ」の開催について

- マリモや阿寒湖周辺の自然環境に詳しい第一線の有識者を講師として招き、講演会やワークショップを通じて市民が最新の研究成果について学ぶ機会を提供することを目的として7月からリレーセミナーを開催しています。
- また、事業で得られた知識や体験を「智のレシピ」として取りまとめることに

よって、釧路・阿寒を訪れた観光客などに対し「智のおもてなし」を実践するための活用ハンドブックを来年度、作成予定です。

- 第3回セミナーは、まりも祭りの初日となる10月8日（水曜日）、阿寒湖まりむ館を会場として、長谷川健（はせがわ・たけし）茨城大学准教授が「阿寒地域における火山灰の堆積史」について、また若菜勇（わかな・いさむ）マリモ研究室室長が「マリモ生育状況の長期変動に及ぼす降灰の影響」についてお話しする予定です。一連のセミナーを通じて、知っているようで知らない、阿寒湖の自然環境やマリモを初めとする野生生物について新しい見方や魅力が示されるものと期待しています。なお、講演会終了後、まりも祭りの恒例になっている、マリモ生育地の観察会が開かれる予定です。

【今までの開催状況】

開催日	テーマ	会場	講師
7月13日	阿寒湖沼群の歴史と水環境	市立博物館	和田恵治北海道教育大学教授 尾山洋一筑波大学研究員
9月27日	火山がもたらす阿寒の特異な生物群集	阿寒湖畔エコミュージアムセンター	佐藤謙北海学園大学教授 坂本洋典玉川大学研究員

【参考】

- 10月15日（水曜日）午後1時から、阿寒湖まりむ館にて、釧路市地域協議会・3地区合同会議を開催する際、若菜マリモ研究室長が「世界自然遺産登録を目指す 阿寒の自然環境とマリモ」と題して講演予定です。

### 3. 質疑要旨

(質問)

- ・ 今回の御嶽山の噴火を受けて、新千歳空港では樽前山の噴火を想定した避難計画を策定するとの話があります。釧路にも雌阿寒岳がありますが、今後、新たな取り組みを行う予定があれば聞かせてください。

(市長)

- ・ 御嶽山は、噴火警戒レベル1での噴火であり、雌阿寒岳も同様の状況であることから、驚いています。雌阿寒火山防災会議協議会の取り組みや、国等関係機関との連携等、すでに噴火に備えた動きはあります。今回のことを教訓に、次の一步を考えなくてはならないと思っています。

(質問)

- ・ 雌阿寒岳に避難小屋はないですが、設置なども考えていますか。

(市長)

- ・ ということも含めて、何ができるのか、どういうことが必要なのか、考えながら現実的なことを考えていきたいと思っています。

(質問)

- ・ 具体的な避難計画の策定を検討していく考えがあるのか聞かせてください。

(市長)

- ・ 市単独の避難計画はありませんが、雌阿寒火山防災会議の作成した火山防災計画の中に定める避難計画はあり、その計画に基づいて阿寒湖畔地区の地域住民や観光客の避難対策を行っています。今回の災害を受けて、今後どのように具体的に考えていくのかを検討していきたいと思っています。

(質問)

- ・ 火山防災計画は冊子にして配布などしていますか。

(防災危機管理課課長補佐)

- ・ 雌阿寒岳火山防災ガイドブックを市ホームページに掲載している他、冊子で配布もしています。ただ、こちらは登山客向けというよりも地元住民や観光客向けとなっています。

(市長)

- ・ これから、登山客向けについてどう考えていくのか、検討していく必要があると思っています。

(質問)

- ・ 市として登山客向けに避難計画を作る義務のようなものがあるのか、お聞かせください。

(防災危機管理課課長補佐)

- ・ ありません。登山については、あくまでも自己責任というのが今の考え方です。

(市長)

- ・ 義務はありませんが、山の安全性の確認は必要だと考えています。そこをどう考えていくのか、今回の災害からの教訓をどう活かしていくのか、検討する必要があると思います。

(質問)

- ・ 雌阿寒岳のすぐ隣に硫黄山があります。近くに二つ火山があるということへの計

画などは作成しないのでしょうか。市町村で見るのか、エリアで見るのか、いろいろな考え方があってと思います。

(市長)

- ・ 硫黄山のある弟子屈町とは定住自立圏など、様々な連携をしています。また、津波対策でも、被害があったときにどう内陸の方と連携するのかという課題もあります。エリアで見るという考え方もあるのかもしれませんが。

(質問)

- ・ 避難小屋の設置も視野に入れていると受け止めていいのでしょうか。

(市長)

- ・ 今の段階では、そこまで具体的にまとまってはいません。今回のことを受けて、具体的な話はこれから出てくると思います。全体として、噴火対策をどう考えるのか、あくまでも自己責任ということでもいいのか、そういった議論のスタート地点に立ったところだと認識しています。

(質問)

- ・ 先日、環境省の専門家が視察に来た際に世界自然遺産登録に向けてはマリモ以外の付加価値を高めるべきとのアドバイスがあったという報道を見ましたが、そのような考えはあるのかお聞かせください。

(市長)

- ・ 登録に向けて動く前の段階から、動植物、つまりマリモは遺産登録されないとの認識でおります。マリモの阿寒湖ということで始まっていますが、それ以外の価値も高めていきたいと考えています。

(質問)

- ・ 富士山のように文化遺産を目指すという考えはないのでしょうか。

(マリモ研究室長)

- ・ 富士山の場合、同様のカルデラ火山は世界にたくさんあるため、自然遺産登録は難しく、昔からの日本人と富士山との関わりを評価され、文化遺産登録となりました。

阿寒湖についても、アイヌ文化との関わりも深いとの声もありますが、阿寒湖周辺の自然の特異性に注目し、自然遺産登録を目指したいと思っています。

(市長)

- ・ マリモを作る自然環境ということで、自然遺産登録を目指していきます。

(総合政策部長)

- ・ 阿寒湖とその周りの湖沼群には、マリモの他にも貴重なものは多く、決してマリモだけで登録を目指してはいないことをご理解いただきたいと思います。

(質問)

- ・ 今週の土曜日に今期最後のクルーズ船が入港します。数としては、過去最大の入港となった今季を振り返って、総括をお聞かせください。

(市長)

- ・ 1隻、抜港がありました。この地で経験した様々なことを活かしていただきたいと思います。乗客の皆さんは、市内のみならず管内にも足を延ばす方もいて、管内からも喜ばれました。予定を変えて西港に入ったこともありましたが、後半には耐震岸壁にも無事に入港しましたし、市としても2年後に向けて様々な体験を積み重ねて、次につなげていきたいと思っています。

(質問)

- ・ 観光地は潤ったのかもしれませんが、街中の活性化の起爆剤になるといわれた割には、中心街への効果は薄かったのではないのでしょうか。

(市長)

- ・ 旅客船では、おおむね乗客の6割がツアーに出て、4割が船に残ります。今年は国際交流ボランティアの会の皆さんにも協力いただき、また、乗客目線を知るために実際に船に乗った方もいましたし、本当にいいおもてなしができたと思っています。

国のアンケートでは、旅客船の乗客が停泊地で消費する額は1日に3万円と出ていますが、平成22年に市で行ったアンケートでは、その数字をかなり下回る結果になりました。受け入れる側の方でも商売としてどう消費してもらうのか工夫が必要だと思います。市としても様々な事業展開をして知恵を出していきたいと思っています。

(質問)

- ・ 2年後さらにその次につなげていくためには中心街の魅力を高めていく必要があるということでしょうか。

(市長)

- ・ 中心市街地活性化は、昔からの課題です。借り上げ住宅や道住の建設、民間の再開発などいろいろな動きの積み重ねが活性化につながるとしています。

釧路のように洪水の心配のない穏やかな川が街中にある都市はそうありません。リバーサイドの整備も進めて、満足度をあげていきたいと思っています。

今年度は間に合いませんでしたが、寄港する日のイベントや乗客向けのサービスなどをリアルタイムで知ることのできるアプリを作るなど、いろいろ模索はしておりますので、これからも取り組みを進めてまいります。

(質問)

- ・ そのアプリは、実現するのでしょうか。

(港湾空港振興課長補佐)

- ・ 現在、発信しているアプリは、アンドロイドでは対応できており、アイフォンでは調整中となっています。

(市長)

- ・ 桜ヶ岡地区でのお祭りや、鳥取地区のお祭りなど、地域ごとのお祭りは意外に市民にも知られていません。このアプリの開発は、市民にとっても役に立つと思っています。

(質問)

- ・ 新図書館の件ですが、9月議会で2回の集中審査が行われました。一つの議会で2回行われた例はないと思います。議会からも厳しい指摘もあり、まだ理解が進んでいないのではないかと感じました。市としては、次の集中審査で理解を得たいと考えているのでしょうか。今の気持ちや感想を聞かせてください。

また、次の集中審査では市長が直接答えるということもあり得るのでしょうか。

(市長)

- ・ 総合政策部、生涯学習部ともに資料を提出し、長い時間をかけて説明をしてきました。全体の議論を進めてもらえるのは嬉しく思っています。

いまの図書館の耐震強度が弱いとわかってからさまざまな検討をした中で、時間的にも早くできて財政的にも良いものを考えて提案していますので、そこをしっかりと説明していきたいと思っています。

(総合政策部長)

- ・ 市長の出席については、現時点では白紙です。

(質問)

- ・ 議会の方から市長の出席を求められたら出るお考えはありますか。

(市長)

- ・ 今回のことに限らず、議会は市民の代表ですので、しっかりと対応していきたいと思っています。

(質問)

- ・ 道銀ビルの方から、そろそろ決断してほしいとの声は来ていませんか。

(総合政策部長)

- ・ ありません。しっかりと協議しています。

(市長)

- ・ 中心街に図書館があるというのは将来的に考えてもいいことだと考えています。提案をした際に時間がある程度かかるということについては話をし、理解、了承をいただいています。